

COLLECTION EXHIBITION

冬の所蔵作品展



大目忠《冬山》(部分)
1965年
広島県立美術館蔵

名品の森 III

Forest of Masterpiece II

2022 1/2 Sun ▶ 4/17 Sun

【開館時間】9:00～17:00（金曜日は19:00まで開館）※入場は開館の30分前まで

【休館日】月曜日 ※特別展会期中・祝日・振替休日を除く ※2月28日は展示替のため所蔵作品展は閉室

【入館料】一般 510(410)円／大学生 310(250)円 ※（ ）内は20名以上の団体

【縮景園共通券】一般 610円／大学生 350円 ※特別展は別料金

※高校生以下無料 ※当館で開催中の特別展入館券にて無料をご覧ください。

※障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料（1階総合受付でお申し出ください）。



広島県立美術館 2階展示室

Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市東区上郷町1-11 TEL:082-233-6260 FAX:082-233-1444

<https://www.hpam.jp/>

【概要】

冬の所蔵作品展 名品の森 II

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。当館は開館以来、多くの方々のご協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数5,000点を超えています。

当館は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨春に続いて今年度も5月10日から6月20日まで、また、8月7日から9月12日まで二度の臨時休館となりましたが、その後は再びみなさんに美術館を楽しんでいただけることをうれしく思います。

さて、今期の所蔵作品展では、「ウェルカムギャラリー」と「名品の森 II」の二本立てで、当館コレクションを展示室ごとのテーマで展示いたします。

まず、この秋に展示を開始した「ウェルカムギャラリー」では広島ゆかりの代表的作家を一堂に会して皆さまをお迎えします。続く4つの展示室では、「名品の森 II」として各室それぞれの切り口で作家や作品を御覧いただけます。「生誕140年 パブロ・ピカソ《フランコの夢と嘘》」では20世紀を代表する芸術家ピカソの精神を、「SL機関士画家 太田忠」では没後50年を記念してその画業と生きざまを振り返り、「生誕110年 塩出英雄の芸術」では風景画に託された塩出の哲学を、「新収蔵品紹介」では今年新たにコレクションに加わった作品をお披露目します。あわせて、所蔵作品ミニガイド各種に加え、マンガを交えて当館を楽しくご案内して好評の『ジュニア鑑賞ガイドブック』もぜひ手にお取りください。

会期中には、ギャラリートークや対話型鑑賞会、インスタグラムのライブ配信などの関連イベントも開催して、さまざまな楽しみ方をご提案します。当館公式のSNS3種(ツイッター、フェイスブック、インスタグラム)へのいいねとフォローをお願いします。

当館は新型コロナウイルス感染拡大防止策を施して皆様をお迎えしますので、御理解と御協力をお願いいたします。御来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心と癒やされる展示をめざし、今後も努力を重ねてまいります。今期の所蔵作品展にも御期待ください。

【第1展示室】生誕140年 パブロ・ピカソ 《フランコの夢と嘘》

この展示室では、20世紀を代表する芸術家、パブロ・ピカソ(1881-1973)の生誕140年を記念し、当館が所蔵する彼の版画作品を軸に、その活動の一端を御紹介します。

1937年4月、ピカソの祖国であるスペイン、バスク地方の古都ゲルニカが、ナチス・ドイツ空軍による無差別爆撃を受けました。それに対してピカソが《ゲルニカ》(国立ソフィア王妃芸術センター蔵/スペイン)を描き、抗議したことは知られています。

この展示では、ナチスの蛮行に対するピカソの反応が最も直截的に表れた二枚組の版画作品《フランコの夢と嘘》および同作の制作段階を示す7枚に及ぶ貴重な全ステート(刷りの段階)を御紹介します。



ジュリオ・ゴンザレス《人物(鏡の前の女)》1934年

牡牛や馬、両手を挙げて泣き叫ぶ女性など、《ゲルニカ》と《フランコの夢と嘘》のモチーフには密接なつながりを見出すことができます。一方、より抽象的な表現へと昇華された《ゲルニカ》に対し、《フランコの夢と嘘》からはピカソの受けた衝撃と怒りの感情を生々しく感じとれます。

さらに、《ゲルニカ》と同じく1937年パリ万博に出品し、ファシズムに対抗する共和国政府への連帯を表明した、ジョアン・ミロ、ジュリオ・ゴンザレスら、スペイン出身の他の芸術家たちの作品も御紹介します。

《フランコの夢と嘘》は、ピカソの作品の中でもひと際明確な主題を持つものです。その激しく迷いのない線描に表された、不条理な暴力に対する憤りは、人間の根本的な感情であり、どんな時代にも、忘れてはならないものといえるでしょう。

【第2展示室】SL機関士画家 太田忠

この展示室では、広島市出身の洋画家・太田忠^{おおたちゆう}(1908-1971)の没後50年を記念し、初期から晩年までの12作品により、広島画壇に独自の足跡を残したその画業を御紹介します。

幼い頃から絵が好きだった作者は、小学校を卒業後、夢を叶えるために画家の書生となります。しかし、自活が厳しい現実を知り、働きながら制作するため15歳で国鉄に就職。機関車の掃除や^{かまたけ}罐焚き仕事にいそむ一方、^{ひやまたけお}檜山武夫という画家志望の同僚も得て、ともに制作に励みました。

転機を迎えたのは1937(昭和12)年。絵画指導のために来広した水彩画家・中西利雄^{なかにしとしお}が機関車好きだったことから親しくなり、中西の紹介で知った小磯良平^{こいそりょうへい}や猪熊弦一郎^{いのくまげんいちろう}に師事して展覧会に入選を果たします。同時期には広島市から三次市に異動となり、以後、同地を拠点に、豊かな自然に抱かれた山間^{やまあい}の情景や、機関車から見た沿線風景のモニタージュなどを素朴で温かく描き出した独自の作風により、画壇で活躍を続けました。

このたびの特集では、指導を受けた小磯や中西のほか、交友のあった^{うねもとけい}宇根元警、^{こばやしわさく}小林和作、^{なからまさゆき}名柄正之、檜山武夫らの作品もあわせて展示します。「頭の中ではいつも汽車で走りながら自然を思ひ起して描く」作者とともに、絵の中を巡る楽しい汽車の旅に出かけてみましょう。



太田忠 《雪景》1965年

【第3展示室】生誕110年 塩出英雄の芸術

福山市出身の塩出英雄(1912-2001)は晩年、「私は、仏画を描くようなつもりで山水を描いている。だから、五百年後、千年後の画面が問題なのだ」と語りました。このたび生誕110年の節目に当館収蔵の全10点を展示し、この作家の魅力を御紹介します。

塩出は1931(昭和6)年に帝国美術学校(現武蔵野美術大学)日本画科に入学し、日本画のほか東洋美学や美術史学、東洋文学なども積極的に学びました。1937(昭和12)年からは院展(日本美術院)で活躍し、初期には茶道をテーマに、40歳頃からは風景画にも取り組み、日本美術院賞などの受賞を重ねました。なかでも風景画は、塩出にとって「一本の草の中にも全宇宙の姿をやどし仏の姿を見ることが出来る」仏画、曼荼羅であり、若年時から真言密教を学び、長じて僧侶となった塩出らしい作品群です。

また、この展示室では安芸高田市出身の和高節二(1898-1990)も紹介します。和高は郷里の農村で画業に取り組み、1940(昭和15)年《こぶし牡牛》で紀元二千六百年奉祝日本画大覧の最高賞を受賞し、一躍有名になった日本画家です。当館は一昨年にこの《こぶし牡牛》を受贈し、修復しました。このたびはじめてのお披露目となります。

独自の哲学で画業を深めた塩出英雄。画壇の流行とは一線を画した和高節二の作品とともに御覧ください。



塩出英雄 《層嶺》1978年

【第4展示室】新収蔵品紹介

この展示室では、今年度、新たに御寄贈、御寄託いただいた日本画と日本洋画、工芸の作品を中心に御紹介します。

まず日本画からは、明治・大正期に広島で活動した画家・田辺玉田たなべぎょくでんの屏風、18・19世紀に描かれた《縮景園図》、さらに頼春水らいしゅんすいによる《縮景園記》を御覧いただけます。玉田の人物像は未知ですが、広島の本画の動向を考える上で貴重な作品といえるでしょう。また、縮景園図2点は、当館に隣接する縮景園の景観について、文字資料のみでは読み解くことのできない変遷を視覚的に示してくれる貴重な資料です。

洋画では、山路商やまじしやう、福井芳郎ふくいよしろう、そして太田忠おおたちゆうの作品が加わりました。いずれも広島洋画壇を代表する画家で、山路は戦前期に前衛美術運動のリーダーとして活躍しました。一方、福井は被爆した広島を最も早く画面にとどめた画家と言われ、なかでも《ヒロシマ》は、最も早い作例の一つです。太田の作品は第2展示室で紹介しています。



渡辺溥子 《細織着物「おぼろ月」》1998年

工芸では、2018年に陶芸家として広島県初の文化勲章を受章した今井政之、また、染織作家・杉谷富代と渡辺博子の作品を収集しました。杉谷は広島における染色工芸の草分けの一人で、独特の藍の世界を版画とともに追求しました。一方、渡辺は複雑な経緯を駆使した紬織着物を一貫して制作。その制作過程を垣間見ることができるとともにあわせて展示します。

このほか、平櫛田中ともゆかりの深い中谷翫古の可愛いひな人形もお楽しみください。このお披露目を通じて、作品と皆さまとの素敵な出会いが生まれれば幸いです

【ようこそ、ウェルカムギャラリーへ】

この秋、リニューアルオープン25周年を記念して、新たな展示コーナーとしてウェルカムギャラリーを設けました。当館の顔ともいべき大理石に囲まれた展示室で、当館の成り立ちをご紹介する動画とともに、美術への関心の度合いに応じて選べる作品解説をご用意しました。みなさまへの歓迎の気持ちと、「多くの方々の美術への誘いとなるように」との願いを込め、この場所を「ウェルカムギャラリー」と命名しました。

第1回目の展示となる本展では、「これが、県美の広島愛」をテーマに、広島県ゆかりの著名作家である、洋画家の小林千古・南薫造・巖光、日本画家の児玉希望・奥田元栄・平山郁夫、彫刻家の平櫛田中・圓錐勝三、工芸作家の六角紫水・清水南山・今井政之・奥田小由女の作品を一堂に展示します。作家を育んだ広島という地域の特性や、作家の広島への想いを伝えるエピソードと合わせて、当館が誇る名品の数々を御覧ください。

また、1階ロビーでは画家・菅井汲が所持したポルシェの展示や、1階図書室では美術をテーマにしたマンガコーナーを設けるなど、多くの方々に美術に親しんでいただく場をご用意しています。

美術が好きな方も、これから好きになる方も、どうぞお気軽にお楽しみください。

【媒体掲載用の画像提供について】

- ※いかなる場合も本プレスリリースからの転用は御遠慮ください。
- ※都合により出品作品が異なる場合がございます。御了承ください。
- ※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館までお問い合わせください。
- ※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館まで提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。御了承ください。

「最後の広島藩主」の威風を伝えた 平櫛田中(彫刻家)
疎開した故郷で風景に目覚めて
アメリカで見つけた夢—「移民県」広島から
故郷の友と競って拓いた
被爆体験から故郷の山河に涙する
これが、県美の広島愛。ウエルカムギャラリーへ
広島の愛を人形に託して、身近な彫刻
仏教の源流シルクロードへ
広島県人にも身近な彫刻
平和への願いを人形に託して、身近な彫刻
厳島神社の社殿を朱に戻す
2021年11月9日
ウェルカムギャラリー誕生
広島県立美術館が所蔵する広島を代表する作家の作品を一堂に展示します。
Welcome!
広島県立美術館
Hiroshima Prefectural Art Museum
ウェルカムギャラリーは所蔵作品展の入場料でご覧いただけます。



【関連イベント】

■ インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します。(約15分間)

① 生誕110年 塩出英雄の芸術

日時: 2022年2月3日(木) 17:00～

講師: 隅川 明宏(当館学芸員)



公式Instagram

② 新収蔵品紹介

日時: 2022年2月10日(木) 17:00～

講師: 角田 新、藤崎 綾(当館主任学芸員)、隅川 明宏、岡地 智子(当館学芸員)

③ SL機関士画家 太田忠

日時: 2022年3月15日(火) 17:00～

講師: 角田 新、藤崎 綾(当館主任学芸員)

④ 新収蔵品紹介

日時: 2022年3月29日(火) 17:00～

講師: 福田 浩子(当館学芸課長)

■ リレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式で紹介するトークイベントです。(ワイヤレスガイド使用)

日時: ① 2022年1月21日(金) 15:00～ ② 2022年3月22日(火) 15:00～

場所: 2階 展示室

① 第1室: 生誕140年 パブロ・ピカソ 《フランコの夢と嘘》、第2室: SL機関士画家 太田忠

② 第3室: 生誕110年 塩出英雄の芸術、第4室: 新収蔵品紹介

講師: ① 森 万由子(当館学芸員)、藤崎 綾(当館主任学芸員)

② 角田 新、藤崎 綾(当館主任学芸員)、隅川 明宏、岡地 智子(当館学芸員)

定員: 8名

※要事前申込【Tel.082-221-6246(当館)】

※要入館券。会場入り口でお待ちください。

■ オンライン対話型鑑賞

冬の所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなで話しながらか鑑賞します。

(機材や接続環境、Zoomの操作につきましては、各自で準備をお願いします。)

日時: ① 2022年3月5日(土) 14:00～ ② 2022年3月26日(土) 14:00～

ナビゲーター: 森 万由子、岡地 智子(当館学芸員)

参加方法: オンライン(Zoom)

定員: 6名

※要事前申込

件名に「オンライン対話型鑑賞申込」、本文に「お名前」「電話番号」「参加希望日時」を入れて、以下のアドレス宛にお送りください。

iroeuma2@gmail.com

◎ 御来館の皆さまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下の対策を行っています。御理解と御協力をお願いします。

■ 次に該当するお客様は、入館を御遠慮ください。

・発熱や軽度であっても咳、のどの痛みなどの症状がある方

■ 御協力をお願い

・マスクの正しい着用、手指のアルコール消毒、咳エチケット

・会話は控えめにし、特に大声での会話は行わないでください。

・人と人との接触を避けるため、できるだけ1mの距離を空けてください。

・来館者が多い場合は、入場制限を行う場合がございます。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 神内 有理

総務課 広報担当 一色 直香、弘津 かおる